

レースっていいよね
第45回「World Grand Prix '02 開幕」の巻

4月を迎え、いよいよ本格的レースシーズンの到来である。
エフワンをはじめ、各レースも続々開幕。そして、待望のWGPもいよいよシーズンが明けた。

開幕戦、鈴鹿。

はっきり言って、2輪のレースはオモシロイ。参加台数、序盤から・・・いや、予選から気を抜けない展開。そして各ライダーの魅力的なキャラクター。いまさらWGPについて説明するまでも無いかもしれない。ともかく、その予選、決勝レースに行って来た。もともと予選は500cc、いやMOTOクラスのみしか見ていないのだが。

幸運にも予選2日目の土曜日はピットエリアを散策する機会にも恵まれ、色々な意味で興味深い予選だったのだが、何より、近年鈴鹿サーキットにおいて、これほど興奮したレースというのは稀であった。

思い起こせば、レイトンハウス・マーチを駆るイワン・カペリがホームストレートで、かのアラン・プロストに並びかけた時以来の興奮度であった。

何しろ、予選結果を決定付けたのはチェッカーが提示されてからのラップによるのだから。偶然も重なったのかもしれないが、予選に挑む段取り、その計画性にはさすがプロフェッショナルの『技』を見たような気がする。

それにしても、たった1LAPに賭けるレーサーの集中力、技術力には脱帽である。常人ではない。無論レーサーだけでなく、彼らを支えるチーム力も然りである。エントラントの自らをコントロールする、スティックな姿勢はレースの、いや、競うことの本質を問うた結果なのだろう。いずれにしろ、「みんなが良い仕事してるなあ、」と感じずにいられない。

とにかく、もしWGPをご覧になったことの無い方は、一度観戦することをお勧めする。





RACELIFE
TALES OF A RACE GUY

[GO TO TOP PAGE](#)